

第4期身延町行政改革推進委員会

平成27年度第2回委員会 会議録

- 開催日 平成27年8月3日（月）  
○場 所 身延町役場本庁舎第1会議室  
○出席者 委 員：渡邊一郎 川崎美香 野中正英  
土橋一彦 佐野政人 望月 武

以上6名

欠席委員：鴨狩ルリコ 高橋 完

（敬称略）

職 員：笠井祥一財政課長 高野博邦生涯学習課長  
生涯学習課各施設担当（和紙の里・美術館担当：埜村公文  
リーダー、総合文化会館担当：鈴木健リーダー、金山博物館担当：  
深沢暢之リーダー、文化財担当：深沢広太リーダー）

事務局：樋川 信（総務課長）  
行政改革担当 深沢教博リーダー 望月 恵

以上9名

★19時30分 総務課長の進行により開会

★渡邊一郎会長挨拶

★会長が議長となり審議に入る

○「行政改革実行プラン」第2次改訂版策定について

・委員より事前に提出された質問シートの回答を行う。（前回の続きから）

※質問及び回答は別添資料のとおり

・前回委員会時に委員からだされた追加質問の回答を事務局から説明

★質問No.12～20についての質問・意見は以下のとおり。

◎質問No.12について

【会 長】 金山博物館の現状の説明を。

【金山博物館リーダー】

湯之奥金山博物館は、博物館法に基づき設置されている施設。博物館活動としての意義は主に「社会との接点を持った調査研究を推進する」「学際的・総合的な調査研究を推進する」「さまざまな人々や各種機関との共同研究の推進」「研究成果の積極的な公開と活用」の4点。湯之奥金山博物館はこの4つに基づき平成9年に開館している。国から補助金を受ける中で、平成元年からの大々的な総合学術調査が済み、測量調査、発掘調査、近隣に散ってい

る古文書等の分析・解析を集約した。地域の皆様ばかりではなく、県内外全国的に学術のPR等に寄与している。

ここ数年、徐々に入館者数が減少傾向にある。且つ開館から18年を迎え、施設の老朽化が進み、維持費等の歳出と入館料等の歳入のバランスが芳しくない状況は、数字があらわしている通り。

【会 長】 教育的施設ということに重点を置いていると思うが、観光を主目的にしていく等、今後についてどのように考えているか。

【金山博物館リ-ダ-】

一人の学芸員が居るが、日々業務に追われ、学術研究や資料の整理等が追いついていないが、金山史も第9集まで刊行していて、平成9年からの研究成果を公表している。今後も引き続き力を注ぐように、学芸員には指示をしている。

当然、観光的な部分もおろそかにはできない。町内への集客を含め、今後さらにPRをしていきたい。

【委 員】 前回会議において実行プラン別表の目標数値の変更は認めないことに決定した。金山博物館は目標数値の変更を希望していたが、変更理由の説明を聞きたい。説明の内容によっては、数値変更の可否について再検討する。

【金山博物館リ-ダ-】

平成25・26年度の実績に基づき、この数値であれば到達できるかなという目標を設定した。平成20年度からみると、平成26年度は20%近く実績が下がっている。入館料・売店売上もかなり落ち込んでいる。担当職員一丸となって目標値の達成に向け努力するのは無論だが、もう少し頑張れば届きそうな目標設定にしていただければ有りがたいとの思いがあり、この数字にした。

【生涯学習課長】

説明の補足をする。目標設定は、平成24年度に過去数年間の実績により、平成27年度目標として設定した。目標に向かって平成25年度から取り組んできたが、施設の性格上、社会的要因の影響をかなり受ける。消費増税などの影響がある中で、現状にあった目標にしたいということで、変更のお願いをした。当初設定した目標に向かって取り組みを進めているが、可能であればということで、目標値を若干下げ、目標として取り組める現実的な数字をださせていただいた。

【委 員】 確かに難しくはあると思うが、平成24年度に決めたこの数値を崩すのはやはり不思議に思う。結果として100%いかなかった場合心苦しいところもあると思うが、我慢して元の数値で頑張っ  
て欲しいと思う。

【委 員】 平成27年度からの地方交付税の減収により、5年後におそら

く10億円程度の減収が見込まれ、そういう中で行革が生まれた。どの部分も聖域なき改革の対象。

そういう意味で、確かに施設の設立時期の形態は教育的要素があって収益についての視点は無かったかもしれないが、今はそういう部分であっても行革の中でやらざるを得ない。「今後、観光に傾注した利益主義に主眼をおく場合には」とした表現は、皆が一体となって行革をやっている中で、どうかと思う。その部分の工夫こそが求められている。

【金山博物館リ-ダ-】

そのように努める。

【生涯学習課長】

当然の話だと思う。当初の計画とは当然変わってくるもの。学術的な部分についても、多くの方々に公開して、館に足を運んでもらう。尚且つ、普段の運営の中での維持管理費経費等の削減を図りつつ収支のバランスをとることに取り組んでいる。事業については興味を持ってもらえるもの、再度来ていただけるような企画を展開していくという方針で、今年度も実施している。

【会 長】 当初目標の数値でいくか？

【生涯学習課長】

良い結果がでるように努力する。

【委 員】 一般的に言えば10年の長いスパンの目標だったら、5年経過して途中見直すことも考えられるが。

【委 員】 現状の形を、5年・10年・20年先にどうなるかを考え前進していかないと。パーセンテージの増減等数値上のことだけじゃなく、何らかの形で1年ごとに前進するような方向付けで町民の意見を聞きながら調整していくことをしないと、次世代の身延町に住んで頑張ろうという人たちがいなくなる危機感がある。町づくりのかたちを「一歩前進している」「他の町と比べて違う」というような形づくりを、町民の意見を聞きながら進めていくのが一番効果的なつくり方。ここに多くの質問があるが、回答は現状の答えだけ。これを繰り返すとあっという間に2年、3年同じことが繰り返されるだけ。大変だと思うが、見直しをするべき。総合戦略も、良い機会なので町民の意見を聞く。

自分は若い時に身延町を出ようとしたことがあったが、先輩に「そういう人たちが増えると、身延町はどうなるんだ」と説得された。

【委 員】 実際に形にするのは本当に大変なことだと思うが、実現させていかないと、今までと同じことをやっていたらこれからの身延町の発展はないと思う。是非頑張ってください。

【会 長】 キツイ話だとは思いますが、当初計画はそのままにして、それに近

づけるようにしていただきたい。目標値の変更についてこの会議で議論があったことを経過として付記する。

金山博物館は規模的にも中途半端だし、展示物は学術的には確かに素晴らしいが、展示の仕方、売店の陳列・品揃えの問題、全体のレイアウトを考え直す等、なんとか頑張ってもらいたい。

◎質問No.13について

【委員】 イベントのチケットは本人が会場にいかないともらえない。往復はがきで申し込みにする等考えられないか。

【会長】 今回の質問の回答と総合文化会館の現状の説明を。

【文化会館担当リダ-】

自衛隊コンサートのように無料で人気のイベントだと、朝の6時半からお客さんが並び、20分から30分で完売になってしまう。ハガキだと、殺到した場合順番を決められない。

利用者については、平成25年度と比較して26年度は1,000人ほど増えている。これからも利用者増に向けて取り組みたい。

身延山との連携については、身延山大学公開講座の他、身延山観光協会と連携として初詣や観桜期のシャトルバスの会場として提供している。

次に、平成25年度と26年度の使用料実績について説明したい。

平成25年度に、甲府の音響プロデューサーが「文化会館の音響が良い」ということで、3人のアーティストのCD録音を当館で行った。平成25年度には、この音響プロデューサーからの使用料が558,790円だったが、平成26年度にはこの利用がなかった。今後もCD録音を当館で行ってくれるアーティストの紹介を依頼するとともに全国レベルの音響の良さを周知するために、ホームページにも掲載してPRしていく。

【委員】 施設利用者数の回答があるが、この中で身延町民は何割位か。

【文化会館担当リダ-】

町民の利用は8割以上。

◎質問No.14、15について

【会長】 現状と今後の予測を。

【和紙の里担当リダ-】

活性化施設は手漉き和紙の紙すき体験を7種程体験できる。紙屋は、全国の紙約2,500種を扱っている。販売商品は、仕入れ品の販売の他オリジナル商品を作成して販売している。年々来

館者が減少しているが、体験メニューを考えながら、なるべく多くの人に来館していただけるよう努力したい。

現代工芸美術館は、年4回の企画展を開催している。その他、町文化祭の展示・蔡倫書道展の展示・あかり展など行っているが、年々減少している来館者が増えるような企画を考えていきたい。

【会 長】 和紙の里と現代工芸美術館は全く性格の違う施設。美術館は運営費がかかる割に入場料等の収益があがらないと思うが、その分、もう少し和紙の里の方でリカバーすることも考えて欲しい。味菜庵の収益はどのような状況か。

【事務局】 地元のうどん組合が指定管理者になっている。町に毎月の施設使用料を納めているが、指定管理を受けている施設で、町に使用料を納めている団体は、ここの他もう1か所程度。経営的には黒字を計上している。

◎質問No.16について

【会 長】 価値は非常に高いが、見学に行くのに非常に大変な所。回答の通りあの場所にあることが良い等、過去に議論もあったと思うが、もったいないなという感じはしている。たまたま道の駅が近くにあるから、見学者に対してシャトルバスを出す等を考えたかどうか。今後、国道300号もバスも入れるようになる。

【文化財担当】 来館者の8割が県外の人。地理的制約があり、来館に時間がかかる為、下部温泉に宿泊してもらえると考えている。リピーターの多くは「生誕地丸畑にあるから魅力」という意見。ただ、木喰記念館と微笑館のセットが魅力だったが、現在木喰記念館が都合により閉まっている。

個人所有の仏像の保存と活用について今後、町としてどのように位置づけるか考える必要がある。

◎質問No.17について

【生涯学習課長】

資料の訂正をお願いしたい。

回答欄の「H27、15回⇒H28、16回」とあるのを「15回⇒H28、」を消し「H27、16回」に訂正する。

【会 長】 山梨県から委託された施設だったと思うが。

【生涯学習課長】

平成18年度から町で指定管理として運営をしている。県の外部評価の対象となり、施設補助の廃止・施設の廃止が決定された。平成27年度をもって、廃止となることが決定している。指定管理期間も平成27年度までで、その終了を待って廃止ということ

になった。

【会 長】 今後は。

【生涯学習課長】

今後自然の里の施設をどうするかは、まず山梨県の内部で活用の調整協議を行い、無ければ、公共団体等を対象とした募集。現在はこの段階で、8月末までを目途と聞いている。その結果無ければ、民間事業者を対象として募集をする。

【会 長】 収容は何人か。

【生涯学習課長】

宿泊棟の宿泊可能者数は108名である。

【会 長】 施設としてはやはり中途半端だと思う。

◎休憩（20：35～20：50）

※生涯学習課職員は、関連議事が終了した為ここで退席。

◎質問No.19、20について

【委 員】 来年度から選挙権が18歳からになる。若者たちに身延の未来の町づくりに関心を持ってもらうようにする事が、今、町議をされている人の基本的な活動の原点になると思う。賢い町民がいれば賢い町議になるだろうし、賢い町民が増える事が、行革のもとになる。

【事務局】 議員の立場・公職選挙法等様々な縛りのある中で活動の制限もあると思う。委員のおっしゃるとおり、人材を育成するという非常に重要な観点から、行政として、選挙管理委員会として、いろんな取り組みを考えて行かなければならないと思う。

【委 員】 九州のどこかの市長が集団的自衛権に反対したら、国会議員に「そんなに反対なら国会議員になれ」と言われた。国会議員じゃなきゃ国政は語れないという雰囲気や若者が敏感に感じている。町会議員が少しも国政を語らない。経済・外交・国政などを語る身近な政治家が近くにいるかどうか、18歳が政治に関心を持つかどうかの分かれ道だと思う。身延の町の未来にも大きくかわると思う。

○その他

【事務局】 最終確認として、平成26年度実績数値の変更については承認いただいた。また、平成27年度目標値については、従来通りの目標値はそのまま、変更は無しに決定した。

○次期大綱に向けて

【事務局】

平成27年度で大綱・実行プランは最終年度になる。以降、次期大綱・プランをどうするかという、非常に大きな問題がある。これを、8月下旬にもう一度集まって頂き、ご協議いただく場を設けたい。日程の事務局案は8/27を考えている。現大綱や新しく導入される人事評価の資料等を事務局から送付する。

次期大綱については、「10年一区切りでやめたらどうか」「引き続き方針だけ残したらどうか」「やり方を大幅に変えたらどうか」など、様々なご意見があると思う。次回の会議までに、お考えをまとめていただきたい。皆様のお考えをまとめたものを、町長へ答申し、町長の方針・各課長から組織する行革推進幹事会からの意見集約をしていく。

来年から取り組まれる人事評価制度も踏まえ、「次期大綱の策定」ということで以下のとおりまとめた。

すでに山梨県では終了している。他の自治体でも、大綱のみを策定している町村や大綱・プランとも策定していない自治体など、行政改革にも大きな変化が現れ、いわゆる過渡期を迎えている。更に来年度から本格導入される「人事評価制度」は、行動改革・意識改革・人材育成等々、これまで行政改革大綱・プランが推進してきた内容と同様であり、加えて大変厳しい実効性を求められる制度。具体的には、全ての課で複数の組織目標を掲げ、その組織目標達成の為に職員一人ひとりが個人目標を設定。これを、業績評価のルールにより5段階評価をする。この評価が、給与・賞与・昇任昇格に反映される他、低評価の場合には降任や免職まである分限処分の対象となる、非常に厳しく、職員には高い実効性を求める制度。職員は個々の能力開発に努めるとともに、目標達成の為に、組織力アップが必要不可欠になっている。

このような制度が導入されると、行革プランは二の次扱いとされることが考えられる。新しい計画等を作る時には古いものをスクラップしていくことも、行革の基本でもあるが「行政改革に終わりは無い」といった固定化したイメージや、廃止に伴う諸々の作業が発生する。

先般の決算監査時に監査員から「行政改革の転換期ではないか」「理念の明示にしたらどうか」などの意見をいただいた。

現在行っている実行プランも、課によって取組数が大きく違う。明確な数値目標を設定しているのは全体の65%。目標達成されない場合も特にペナルティは無く、次期プランに引き継がれ、いつまでもたっても改善されないと批判を受ける。取組10年を経過しても「挨拶をしましょう」「忘れずに提出物をだしましょう」「親切にしましょう」といったものを目標に掲げていたのでは、実の

ある改革に結びつかない。行政改革のイメージとすると「削減」「廃止」「切り捨て」といったキーワードがあるが、現在の限られた人員・財源ですべての町民のニーズに沿った事業展開は不可能。類似・重複する計画や、成果・効果の少ない事業に対して一定の整理を行い、その労力をより効果的な手法へ転換することも必要。

★その他

【委員】 人事評価制度について、評価する側である管理者の研修はどの位進んでいるか。

【事務局】 本町は平成20年から人事評価制度の試行を行っている。山梨県市町村職員研修所が毎年実施している「評価者研修」への派遣の他、今年度については本格導入前年ということもあり、年明けの1月に評価者を集めた一斉研修を実施する予定。

★渡邊会長の閉会のあいさつ。

★次回は8月27日（木）19時30分

21：13 散会